

渡良瀬川河川敷を利用した乳牛放牧  
～仲間との厚い絆を築いて半世紀～

## 1. 地域の概況

館林市は、「鶴舞う形」の群馬県南東部、ちょうど鶴の頭の部分に位置している。市の面積は60.98km<sup>2</sup>、人口は78,402人（H21年7月）での県内7位である。

市の気候は、四季を通じて晴天が多く、県内では最も温暖な地域である。平均気温は15.8℃、年間降水量は809mmである。

市の農業は、畜産、野菜、米などの農産物を生産しており、その産出額は700千万円と、県内では12位である。

農業における耕地面積は2,560ha、総農家数は1,639戸、専業数389戸となっており畜産では、乳用牛27戸・1,307頭、肉用牛27戸・2,412頭、養豚3戸・430頭、採卵鶏3戸・78,200羽（H17年）となっている。



館林市

### 1. 地域の概況

### 2. 地域畜産振興活動

#### (a)乳牛の放牧

#### (b)草地の改良・施設の整備

### 3. 地域貢献

### 4. 今後の目指す方向と課題

渡良瀬川河川敷を利用した乳牛放牧  
～仲間との厚い絆を築いて半世紀～

## 2. 地域畜産振興活動

### (a)乳牛の放牧

昭和31年以降、河川敷の野草利用を目的として、当該事例による野草刈り取りが始まった。昭和41年からは、さらなる有効利用として公共牧場として開設し、乳用牛の放牧受入を開始した。放牧料や役割分担については、会員全員で検討し、毎年8人の管理人を選出し、牧場の管理作業をローテーションで行う体制を生み出している。管理人については、作業報酬もあり、会員全体で平等な体制ともなっている。

放牧実施時期は、3月下旬から10月下旬までであり、県内では最も早い時期に入牧しており、浅間牧場の馴致牧場としても利用されている。さらに、毎月入退牧の機会を設けているため、最長で7ヶ月、最短で1ヶ月と柔軟に利用できることも独特の体制と思われる。

放牧を実施した乳牛の発育も大変良く、十分放牧馴れしているため、管理もしやすいと評判である。



### 1. 地域の概況

### 2. 地域畜産振興活動

#### (a)乳牛の放牧

#### (b)草地の改良・施設の整備

### 3. 地域貢献

### 4. 今後の目指す方向と課題

渡良瀬川河川敷を利用した乳牛放牧  
～仲間との厚い絆を築いて半世紀～

## 2. 地域畜産振興活動

### (b)草地の改良・施設の整備

#### ①草地の改良

当初は野草利用が中心であったが、良質粗飼料給与による発育向上を目的として、草地の改良を試行錯誤しながら行ってきた。

その結果、嗜好性が高く収量も多いイタリアンライグラスを播種することとしている。



#### ②牧区管理

適正な牧区管理を行うため、食い残しが少なく管理もしやすい3牧区体制・1牧区4.0haの規模で管理することとしている。

#### ③日除け施設

自然の日除け場所を設けるため、平成5年から桑の木を育て、現在では大木となった3本の木の下で乳牛が日除けをしている。



### 1. 地域の概況

### 2. 地域畜産振興活動

#### (a)乳牛の放牧

#### (b)草地の改良・施設の整備

### 3. 地域貢献

### 4. 今後の目指す方向と課題

渡良瀬川河川敷を利用した乳牛放牧  
～ 仲間との厚い絆を築いて半世紀～

### 3. 地域貢献

#### ①野草利用・環境保全

当該事例の取組に対して理解が深まり浸透したことで、河川敷以外の周辺地域における野草刈り取りを依頼されることが増えた。市役所・会員、双方にとってメリットのある取組であり、今後も増える見込みである。



#### ②消費拡大

館林市産業祭において、無料で牛乳試飲や飲むヨーグルトなどの配布を32年間連続で行っており、牛乳・乳製品の普及や消費拡大に努めている。

#### ③癒しの景観

4～10月の放牧期間中はいつでも、川音を聞きながらのんびりと河川敷の牧草を食べて過ごす牛達を眺めることができる。

その他、市内には「つつじが岡公園」や「多々良沼公園」など、水辺の観光地が多いため、それらと並び観光客誘致への効果もあると思われる。

多々良沼



#### 1. 地域の概況

#### 2. 地域畜産振興活動

##### (a)乳牛の放牧

##### (b)草地の改良・施設の整備

#### 3. 地域貢献

#### 4. 今後の目指す方向と課題

## 渡良瀬川河川敷を利用した乳牛放牧 ～仲間との厚い絆を築いて半世紀～

### 4. 今後の目指す方向性と課題

これまで、乳価の低迷、飼料価格の高騰により酪農家の経営圧迫が続いてきた。

このような情勢では、低コストで飼養管理を行いながら、優秀な乳牛を育成することが経営の維持に望ましいものであり、後継牛の自家育成に力を入れることは経営上重要なことである。

自家育成の一貫として育成牛の放牧を行うことによる強健性の向上、飼養コスト削減などのメリットは、長期的な視点で見て、経営改善への貢献は確実である。そのため、今後は管内における受託放牧頭数の増加が見込まれる。

今後は、乳牛後継牛の受入とともに、

- ①希望のある農家から和牛の放牧を受入
- ②未活用の野草利用

など、さらなる河川敷の利活用をすすめ、地域資源を生かしながら地域畜産の活性化に寄与することを考えている。



#### 1. 地域の概況

#### 2. 地域畜産振興活動

##### (a)乳牛の放牧

##### (b)草地の改良・施設の整備

#### 3. 地域貢献

#### 4. 今後の目指す方向と課題